

国際開発学会発表

ポスト2015年開発アジェンダにおける持続可能な開発目標 (SDGs)のあり方

2013年6月8日

東京工業大学大学院社会理工学研究科准教授 蟹江憲史
東京工業大学／地球環境戦略研究機関 宮澤郁穂

背景

<ミレニアム開発目標(MDGs)>

2015

<持続可能な開発目標(SDGs)>

MDG7:環境の持続可能性確保

✓具体的目標

1. 持続可能な開発の原則を各国の政策やプログラムに反映させ、環境資源の喪失を阻止し、回復を図る。
2. 生物多様性の損失を抑え、2010年までに、損失率の大幅な引き下げを達成する。
3. 2015年までに、安全な飲料水と基礎的な衛生施設を持続可能な形で利用できない人々の割合を半減させる。

課題

- ✓途上国対象型
- ✓MDG7は明確な定量的目標ではない
- ✓他のMDGsに比べ森林問題や水問題、CO2排出等の課題に対する進捗は芳しいものではないとの評価
- ✓グローバル目標と国家目標の関係性

これまでの議論

- リオ+20プロセスでコロンビア・ペルー等による提案、リオ+20の成果
- 多くの国・機関・市民社会が支持
- 2015年以降の開発目標と統合
- 持続可能な開発の3つの側面(経済、社会、環境)に統合的に対応
- 先進国・途上国を対象とする普遍的目標
- 新たな課題(エネルギー、防災等)も検討

論点

- ✓MDGsとの関係性
- ✓主要原則
 - 普遍性
 - 「共通だが差異のある責任」原則
- ✓対象課題・分野(エネルギー、新技術等)
- ✓測定手段・指標
- ✓実施手段(資金、能力開発、技術移転等)
- ✓ガバナンス

これらの全体的動向を把握し、地球システム変動に対応した、
多角的視点・分野横断によるSDGsの検討

環境と開発に関連した国際動向

ミレニアム開発目標に関連した国際動向

**OUR
COMMON
FUTURE**

THE WORLD COMMISSION
ON ENVIRONMENT
AND DEVELOPMENT



1972年 国連人間環境会議（ストックホルム会議）

**1987年 『ブルントランド委員会報告書 (Brundtland Report)
– Our Common Future – 』**

1992年 環境と開発に関する国連会議（UNCED：地球サミット）

- ⇒ 「環境と開発に関するリオ宣言」「アジェンダ21」の採択
- ⇒ 「気候変動枠組条約（UNFCCC）」「生物多様性条約（CBD）」の採択
- ⇒ 「地球環境ファシリティ（GEF）」「国連持続可能な開発委員会（UNCSD）」の創設

1995年 世界社会開発サミット

2000年 国連ミレニアムサミット

- ⇒ 「ミレニアム宣言」の採択
- ⇒ 「ミレニアム開発目標（MDGs）」の検討、採択（2001年）

**2002年 持続可能な開発に関する世界首脳会議
（WSSD：ヨハネスブルグ・サミット）**
⇒ 「ヨハネスブルグ実施計画」の採択

2012年 国連持続可能な開発会議（UNCSD, Rio+20）

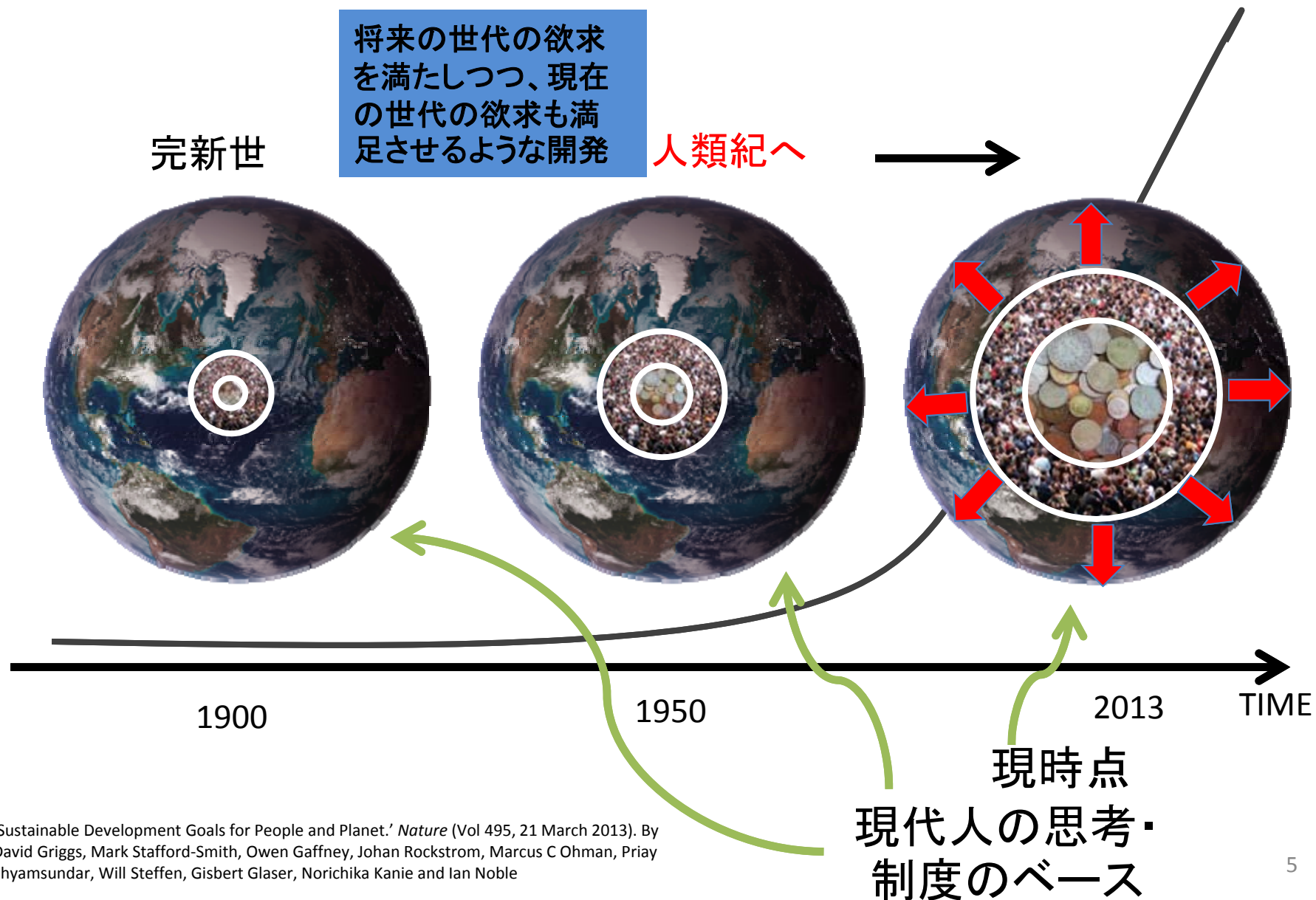
ポスト2015に向けた持続可能な開発目標の検討

環境と開発の統
合目標へ

MDGsの評価

評価された点	改善すべき点
<u>内容:</u> • 貧困レベル等の改善、開発援助の増進、多様なステークホルダーの参加促進 (UNGA 2011a; UNDP 2011) <u>目標設定:</u> • セクター間のリンケージ (Vandermoortele 2011) • 明確で包括的な目標設定 <u>制度の在り方:</u> • 効果的な実践を確保するための制度の存在 • 結果ベースのマネジメント方法 (Result-base management) の定着化 <u>資金確保:</u> • ODAの増加、途上国で貧困撲滅などに関する政策の優先順位を上げた (Moss 2010; Pollard et al. 2010; Manning 2010; Vandermoortele 2011)	• 各MDG目標における具体性と包括性欠如によりいくつかのMDGsは達成できず ⇒ 実効性の強化が必要 • MDGsは “One size fits all” 型 ⇒ 各国や各目標の達成度における「ギャップ」が存在 (Vandermoortele 2011) • MDGs達成後の目標、課題間のリンケージが欠如⇒ その後のロードマップが見えない  • <u>グローバルなベンチマークを設定</u> • <u>行為主体間の連携や役割の強化</u> • 重要課題も含めた <u>ユニバーサルな目標</u> 設定と <u>(国・地域・地方等) 個別目標</u> • 中間目標 (intermediate) 目標を定め、<u>目標達成の基準</u> を明確化 (Poku et al. 2011; Moss 2010; Vandermoortele 2011; Guardian 2010; Koehler et al, 2012).

「開発」をめぐる環境変化
⇒ 「持続可能な開発」概念変更の必要性と緊急性



‘Sustainable Development Goals for People and Planet.’ *Nature* (Vol 495, 21 March 2013). By David Griggs, Mark Stafford-Smith, Owen Gaffney, Johan Rockstrom, Marcus C Ohman, Priya Shyamsundar, Will Steffen, Gisbert Glaser, Norichika Kanie and Ian Noble

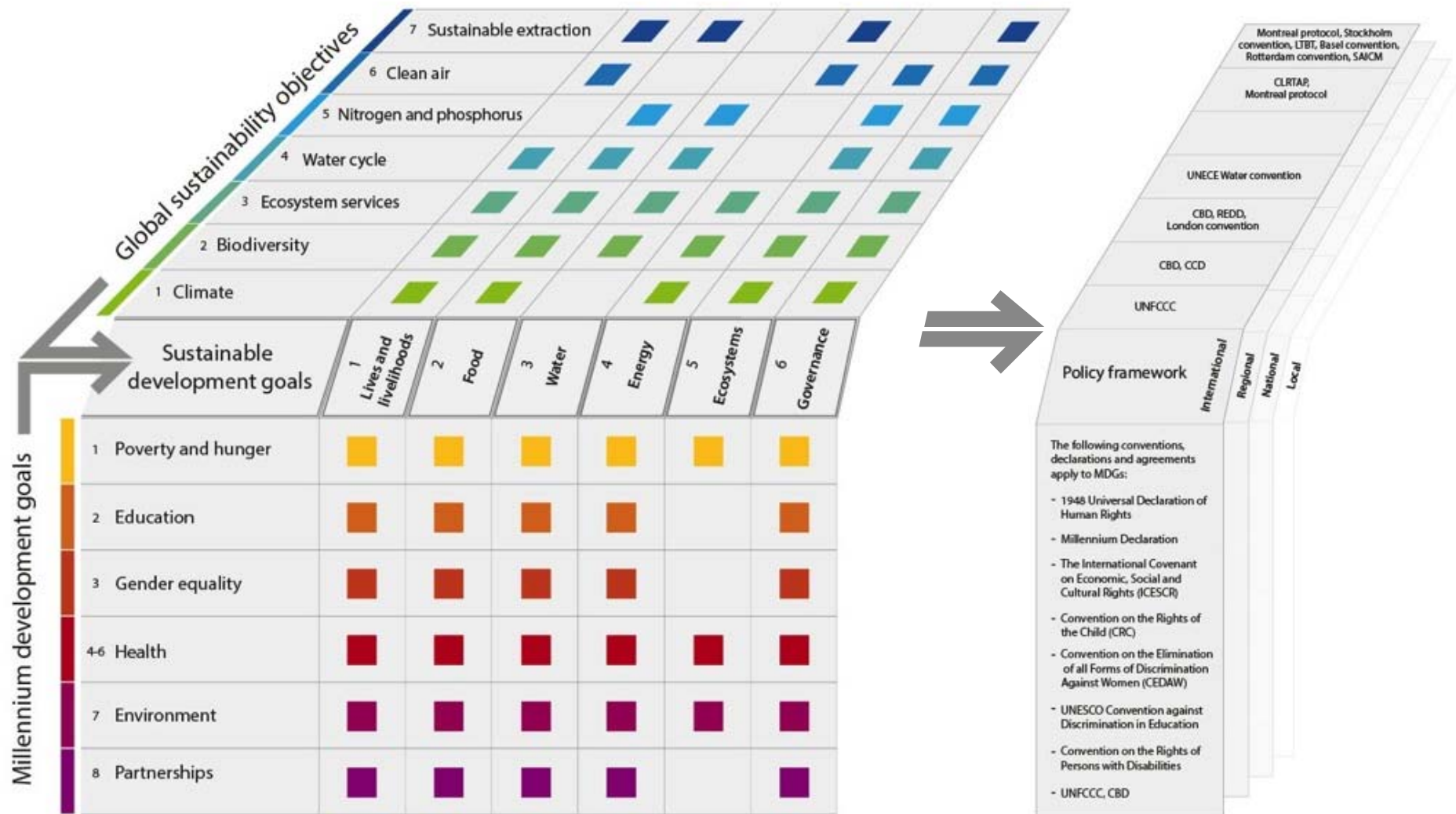
人類紀における「持続可能な開発」の再定義

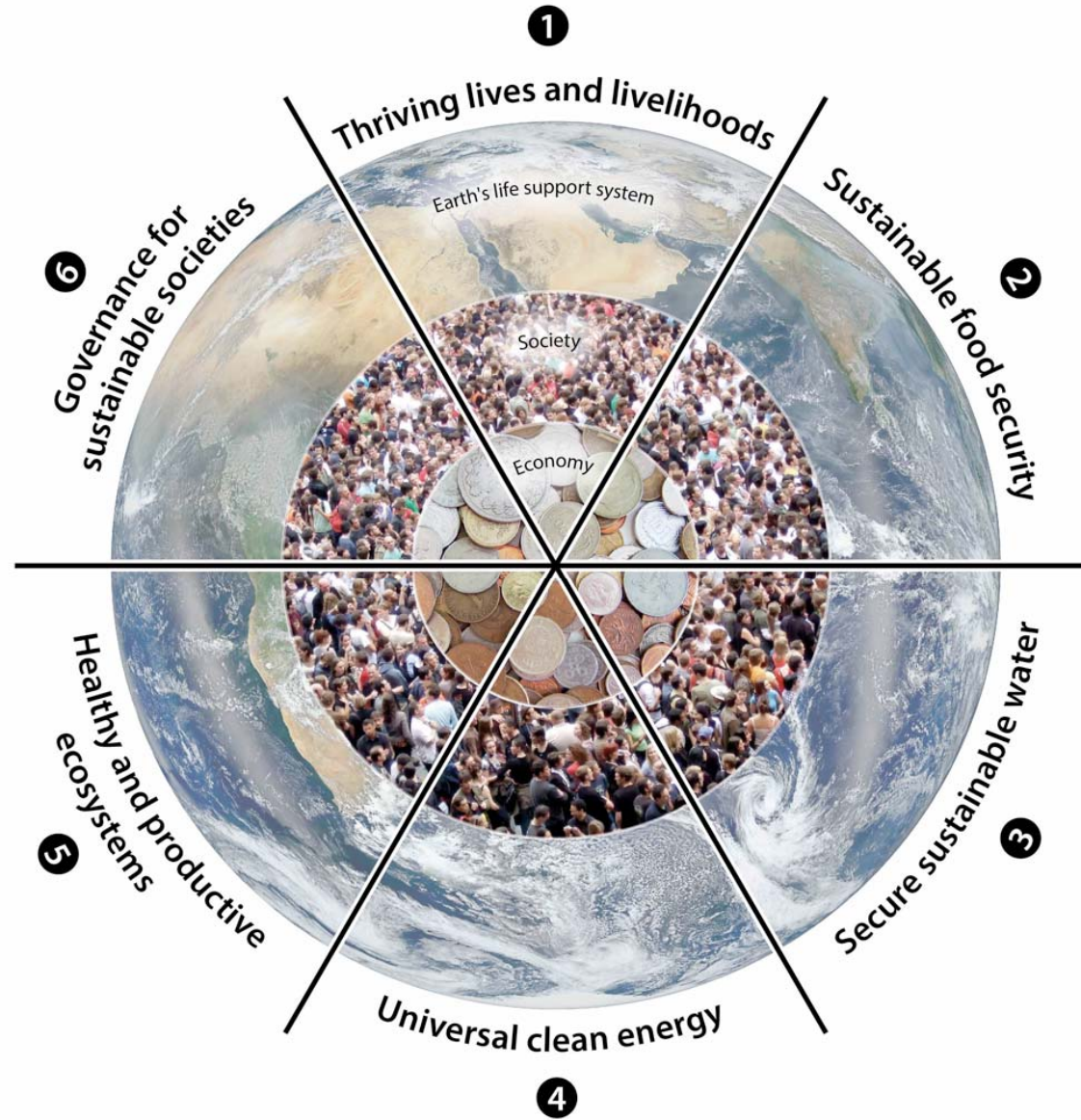


Development that meets the needs of the present while safeguarding Earth's life-support system, on which the welfare of current and future generations depends

現在及び将来の世代の人類の繁栄が依存している地球の生命維持システムを保護しつつ、現在の世代の欲求を満足させるような開発

'Sustainable Development Goals for People and Planet.' *Nature* (Vol 495, 21 March 2013). By David Griggs, Mark Stafford-Smith, Owen Gaffney, Johan Rockstrom, Marcus C Ohman, Priya Shyamsundar, Will Steffen, Gisbert Glaser, Norichika Kanie and Ian Noble





2030年の6つのSDGsの例

	目標	主な内容
1	生命及び生活の繁栄	貧困の根絶、教育、雇用と情報へのアクセス改善による豊かさ増大、健康状態や居住状況の改善、持続可能な生産消費活動の実現を目指しながら不平等を改善する。これらの多くは既存MDGsの延長及びその先進国への適用による。
2	持続可能な食糧安全保障	MDGsの飢餓目標の拡充による飢餓根絶、持続可能な生産、配分、消費システムを通じ、栄養源の確保を含む長期的な食料確保を達成。窒素及びリンに関する数値目標の設定。
3	持続可能な水安全保障	きれいな水と基本的衛生状態の完全普及、統合的水管理による効率的配分の達成。これによりMDGsの健康目標に貢献するとともに、排水や流域での水利用上限の設定。
4	クリーンエネルギーの普及	クリーンエネルギーを普遍的かつ安価で利用できるようにすることで、環境汚染や健康被害を最小限に抑えると同時に気候変動を緩和。これにより、MDGsの教育、ジェンダー平等、健康目標等に貢献。
5	健全かつ生産的な生態系	適正な管理、評価、測定、保全、修復により生物多様性と生態系を維持。愛知目標とMDGsの環境目標を統合。
6	持続可能な社会のためのガバナンス	上記5つのSDGsを実現するため、社会のあらゆるレベルにおいてガバナンスと制度を変革する。

(Griggs et al. 2013より)

今後へ向けた課題

- 現在のアプローチはMDGをそのまま応用。ポストMDGとはなっていない
- ポストMDGの目標が練れていない
- 各SDGの詳細な検討、SDGのネクサス（融合）
- 実施・評価・プロセス等を含むSDGsそれぞれを効果的に推進するためのガバナンスの検討

SDGのあり方について

提示する目標体系ー「限界のもとでの成長」を促進する目標

1. Post-2015 Agendaとしての課題群のうち、地球の制約と因果関係のない(あるいは薄い)問題群は、独立の目標
 - ー 【課題】一見因果関係がないと思われるものの因果関係を示すことで、目標群2. 3に昇華する
 2. Post-2015 Agendaとしての課題群のうち、地球の制約と因果関係のある問題群に関する(組合せ)目標
 - ー 例えばマラリアと気候変動、教育の質の向上と環境教育、食糧とエコロジカルフットプリント、貧困悪化等。科学的根拠の明確な因果関係、不確実性の高い因果関係など、2～3種類に分割。
 - ー 【課題】因果関係をめぐる明確な科学的根拠と論理性の構築、組合せの表現の仕方
 3. 地球の制約に関する課題群のうち、basic human needsに影響を与える(可能性の高い)問題群に関する目標
 - ー たとえば気候変動と食糧・水、貧困の悪化
 4. 地球の制約に関する課題群のうち、basic human needsとは因果関係のない(あるいは薄い)問題群
- SDGは上記2,3を中心に構成されるべき

